

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2021年度 助成者)

作成日 2021年 8月 21日

氏名 (フリガナ)	ト部真輝 (ウラベマサキ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2021年8月17日 (火) ~ 8月21日 (土) オンライン (Zoom)
大学名	国際医療福祉大学
学年	5年

この度私は、Hawaii Tokai International College 主催の医学部夏期集中医学英語オンラインプログラムに参加させていただきました。例年と異なり、オンラインでの開催でしたが、それでもプログラムの趣旨にあった通りに、実践的な医学英語やケースプレゼンテーションの上達ができたとともに、指導医、JABSOMの学生、同じ志を持った日本の学生との交流を通して、改めて将来的な臨床留学への想いが強めることができました。

私は家庭医療や総合内科、感染症内科などを将来の専門科として考えており、臓器横断的に患者を診ることのできるジェネラルな力を身につけていきたいと考えております。それらの分野で長い歴史に基づく体系的な教育が受けられる米国での研修の魅力を、多くの先輩医師の方々から伺ってきたことなどから、米国での臨床をしたいと考えております。

今回のプログラムに期待していたことは、来年に控えた海外での臨床実習にも活かすことができる、上記の将来の土台作りとしての医学英語の力をつけることでした。プログラムの内容としては、ハワイで働く日本人医師の体験談や、米国での卒前卒後教育についてのレクチャー、PBL形式での臨床推論、病歴聴取、口頭プレゼンなどの内容がありましたが、最も印象に残ったこととして、基本的臨床能力がつく米国の卒前教育の凄みを、現地にはいけなくとも感じることもできたため、期待していた以上のものを得ることができました。

これまでもしばしば、卒業時点での医学生の基本臨床能力は日本と米国で大きく差があると伺ったことがあったのですが、自大学の病院で実習をしながら見学型の実習に不満を覚えつつも、あまり臨床能力がついていないことに危機感を覚えることが少なかったように思います。しかし、数日間英語でのPBLや病歴聴取、口頭プレゼンを経験しただけでも実力がついた感覚があるので、これを年単位でやっている米国の医学生はどれほど病院で働けるのだろうか、来年に控えた海外臨床実習のことを考えるにつけても恐ろしくなりました。それとともに、Dr. Shonをはじめとした優秀な先生方に非常に有益なフィードバックがもたらされたことで、自信をつけることができたので、そのような環境があることに羨ましくも思いました。

今回、米国の医師や医学生と交流できたことは、米国で通用する基本的臨床能力を向上するために、自大学の病院で実習をしながら口頭プレゼン等の練習を、今回学んだことを参考に練習していく決意につながり、小林先生のお言葉にもあったように、実用的な英語を身につけていくために準備していこうと改めて思うことができました。

プログラムに参加する前は正直なところ、留学への思いも下がっていたところがあるのですが、様々な人との交流を通して再び思いが強まったので、この経験を活かし将来の臨床留学の実現のために日々研鑽していきます。Mr. Bales, Dr. Shonをはじめ、コーディネーター、指導医の方々、日米医学交流財団の関係者の皆様、そしてJABSOMの学生、今回一緒に参加した日本人の仲間にこのような貴重な機会が頂けたこと感謝申し上げます。